

創刊110周年記念

誇れるふるさと
24地区リレー
〈vol.15〉

〈藤山① 特徴〉

藤山地区の始まりは、瀬戸内海に面した藤曲村と、霧降山の南に広がる中山村が合併した1889年。両村の一字を取って藤山村となった。1931年には他村に先駆けて宇部市と合併。現在は市西部に位置し、中心市街地や瀬戸内海沿岸の工場地帯と厚東川以西をつなぐ交通の要衝となっている。また、各年代の教育機関がそろった文教地区であることも特色の一つ。住民は文化イベントや避難訓練を学校などと合同で行い、世代を超えた地域の絆を育んでいる。

石炭運搬の要所 東海・関西まで



山田監督と交流する藤山YY会のメンバー
(1999年、藤山ふれあいセンターで)

山田監督との絆、今も



江戸時代から大正時代にかけては農業や漁業の他、回船業が盛んだった。特に石炭の運搬はそのほとんどを藤曲浦の業者が担い、遠くは東海・関西方面にまで運んでいたという。地元出身の秋富久太郎(1867〜1962年)は木材販売や土地造成などの事業を手掛け、地方自治にも貢献した。明治時代には香川昌

子(1872〜1953年)が文教地区の一翼を担う現・学校法人香川学園の香川裁縫塾を開校。秋富も経済的な支援を行った。

基本データ

- 面積7.86平方キロ(10位)
- 世帯数5115世帯

- 人口1万686人 (5位)
(男性5144人、女性5542人)
 - 高齢化率30.8%
 - 小学校児童数519人
- ※世帯数などは2022年4月1日現在

忘れてはならない人物がもう一人。地区で思春期から青年期を過ごした映画監督の山田洋次さんだ。住民は地域おこしを目的とした「藤山YY会」を25年前に立ち上げ、山田さんとの縁を形成。新作が完成するたびに、山田さんを招いた上映会を開催するまでになった。同会の解散後、地区外のメンバーも加えた「うべYY会」が誕生し、上映会などの活動を引き継いでいる。

藤山YY会の元会長、名和田敏子さん(89)は「活動を通して、ワイワイガヤガヤと楽しく住民同士の交流ができた。今後も山田監督とのつながりが続いてほしい」と思いを語った。